

## 個人研究 実践報告 英語で大喜利

著者	阪田 卓洋
雑誌名	筑波大学附属駒場論集
巻	58
ページ	140-156
発行年	2019-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00155622">http://hdl.handle.net/2241/00155622</a>

## 実践報告 英語で大喜利

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科  
阪田 卓洋

## 実践報告 英語で大喜利

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

阪田 卓洋

### 要約

英語授業において、生徒に教材を提示するインプットの段階から、彼(女)らがその内容を踏まえて発話活動・発表活動をするアウトプットの段階へ、教員側がどのような働きかけをするかが極めて大事となる。自由度の高い発話活動や創作ライティングは中学段階の生徒にとって過度な負担になり得る(中森(2018, p134))が、その一方で、提示された教材を再産出する Story Retelling 活動は、ともすると英文の暗唱に終始し、自分の言葉で発話する・発表する活動としては不十分であるとも思われる。その点を踏まえ、英語授業の中で、Story Retelling で使用した絵を再度用い、その絵に独自の視点で面白い物語を創作してもらい、それを発表する活動を大喜利形式で行った。本論考はその実践報告である。この活動の意義として、①言語の本質である創造力を暗示的に示すこと、②英語が苦手な生徒も積極的に発表に加わることができること、③繰り返し既習文法に触れる良い機会になること、が挙げられる。

キーワード：発表活動, Story Retelling, 定着活動, ゲーム形式, 創造性

### 1 はじめに

筆者は、英語の授業の中に「楽しみながら英語を使う時間」を多くとりたいと思っている。教室の外に一步出れば英語が必要ではない日本において(尤も、東京オリンピック 2020 まではそれなりの必要性はあるかもしれないが)、英語を習得することは容易ではない。たった週4時間の英語の授業であるが、その中にどれだけ英語を実際に使う時間が取れるか、が勝負の鍵となる。

生徒が英語を使う、という視点から英語の授業を考えたときに、一番の理想はイマージョン(Immersion)である。英語の海の中で泳がなければ死んでしまう状況に行けば(Swim or sink)、否が応でも英語を使わざるを得ない。しかし、これは日本で英語を外国語(EFL: English as a Foreign Language)として教室で学ぶ者には、現実離れした提案である。41人のクラスに対して1人のALTが来たところで、イマージョンには程遠い現実である。

そのような状況で生徒に英語を使ってもらうにはどうしたらよいか。色々な方法があると思うが、いずれの方法を採るにせよ、英語を使った活動をするからには楽しんで活動してもらいたい。成績を上げるために嫌々英語を使っているような状況だけは作りたくない。

「この活動なら英語使っても楽しくできるから使ってみるか」と生徒に思ってもらえるような活動を、教員が考えるしかない。

今回の「英語で大喜利」はそのようなモチベーションから生まれた活動である。以下、詳述したい。

### 2 なぜ大喜利か

#### 2.1 テンポが良い

大喜利形式での発表の一番の魅力はテンポの良さにあると言える。聴衆の立場からすると、いくら自分の知っている友達の発表とは言え、1分も2分も続くスピーチを10人分、20分も聞き続ければ、自然と集中力は切れてくる。一方、大喜利形式では、複数人の解答者が自分達の目の前におり、その中の誰がどのような発表するか分からないという「意外性」があり、また、1人が数秒、長くても10数秒という短い話を続けていくという「テンポの良さ」がある。同じ20分の発表であっても聴衆を引き付ける力は、このような発表スタイルの方が上であると言える。

#### 2.2 全員を巻き込む力

大喜利というと、その場で面白い解答を発表し、聴衆をあっと言わせることが醍醐味であるが、母語であ

る日本語ですら困難であるこの活動を、習いたての外国語で行うことは不可能と言ってよい。そこで、今回は4人のグループワークとし、発表者以外は放送作家として大喜利のネタを考えてもらうことを課して、基本的に発表者はネタを考えなくて良いことにした。こうすると、発表者に過度な負担がかかることを避けると同時に、全員に何かしらの役割を与えることができる。

また、人前で発表することは苦手でありながらも、面白い解答を用意することが得意な生徒も活躍できる場が生まれ、適材適所で発表活動を行うことができる。特に、中学生という発達段階を考慮に入れたときに、人前で面白いことを言う、ということに恥じらいを感じる生徒もいる。そのような生徒に発表を強要するのではなく、台本作成という活動を通して参加させることで、一定の達成感をもたらすことができる。

### 2.3 面白さを求める過程で起こること

大喜利をするからには聴衆がハッとするような、なるほどと思うような解答を用意したい、というモチベーションが生徒の中に生まれる。そしてこのモチベーションが英語学習の観点から大事な役割を果たしている。

当然のことであるが、面白さを共有するためには、その面白さが聴衆に伝わらなければならない。どんなにアイデアが面白くとも、それを伝える英語が全員にとって理解可能でなければ、その解答は大喜利として高い評価を得ない。つまり、面白さを追い求めることは、相手にとって理解しやすいアウトプットを産出することを必然的に要求するのである。

スピーチの発表では「相手に伝わりやすい英語で話す」というような観点を設けたり、聴衆に振り返りシートを記入してもらったり、あるいは質疑応答の時間を設けたりして、伝わる英語を使用することを間接的に促すことができる。しかし、これは2.1で触れた「テンポの良さ」の逆を行く発想であり、どうしても間延びした活動になってしまう。

英語で大喜利は、その活動の趣旨自体に「伝わる英語」を使うことが内包されている。教員は彼らに面白さを求めさえすれば、彼ら自身がその背後にある「伝わる英語を使う」という課題を乗り越えていってくれるのである。

### 2.4 アウトプットの瞬発力を鍛える

2.2で触れたように、今回は放送作家に事前にネタを

作ってもらい、それを発表者にその場で発表してもらう形式にした。これではスピーチ活動と同じように台本を暗唱しているだけなのではないか、という考えもあるかもしれないが、大喜利形式の方が実際のコミュニケーションに近いと思われる。

我々が外国語で会話をするとき求められる力の一つに瞬発力があると思う。自分が言いたいと思ったことを頭の中でどれだけ早く、正確に産出できるか、という点である。スピーチ発表ではこの能力は必要ない（あらかじめ話す内容が決まっているため）が、即興スピーチやディスカッション、会話となると発話の自由度が高まり、よって瞬発力も必要となる。

今回の大喜利では事前にお題を提示しているため、スピーチのように事前に準備をすることができる。ただ、その場で出されたお題に答えるためには、頭の中にある情報を早く、正確にアウトプットすることが求められる。その点において、自由度の高いアウトプット活動につなげるための第一歩として捉えることができるのではないかと。

### 2.5 4技能の統合

グループで大喜利の活動を実施する過程で、読む・聞く・話す・書くの4技能をバランスよく含めることができる。

- 1 放送作家によるネタの創作 (Writing)
- 2 放送作家のネタの共有と選別 (Reading)
- 3 AETによる英語のチェック (Grammar)
- 4 発表 (Speaking & Listening)

放送作家には事前にお題を5つ与えているため、一つに20語程度の解答を用意したとして、全体で100語の英作文を書いたことになる。これを4人グループで持ち寄れば、放送作家3人分(1人は発表者)で300語の英文ができたことになる。もちろん英語に誤りがあると思うが、それを踏まえても300語近い英文をグループ内で読み合う活動には意義があると思う。

### 2.6 想像力そして自由英作文との連携

今回の大喜利は、絵を見て面白いことを英語で言う、というお題で統一した。この活動には picture description の要素が含まれている。大学入試問題を見ても、このような状況描写の自由英作文の問題が出てくることが多い。東京大学2015年度では以下のような問題が出ている。

- 2 (A) 下の絵に描かれた状況を簡単に説明したうえで、それについてあなたが思ったことを述べよ。全体で60~80語の英語で答えること。



2015年度東大入試 問2

まさに絵を見てその内容を描写するタスクである。ただ、それだけでない。いささか不思議なこの絵に対して「あなたが思ったことを述べ」なければならない。状況を正確に描写する能力と、その背後にある物語を創作する力が必要になる。この問題が要求する高い英語力と豊かな想像力が、まさに「英語で大喜利」で鍛えようと思っている力である。

### 3 英語で大喜利に至るまでの指導

#### 3.1 対象学年

今回英語で大喜利を実施したのは中学2年生123名である。筆者が担任を務める学年であり、中学1年生から継続して英語授業を担当している。英語学習へのモチベーションが高い生徒が一定数おり、また、どのような課題にもやる気をもって取り組む子が多く、全体的に授業がしやすい雰囲気である。

#### 3.2 夏休みの課題図書

夏休みには読書課題として *The Adventures of Tom Sawyer* (Macmillan Readers, Level 2) を課した。アメリカ文学が誇る古典的名著であり、名前を知っている人は多いが、実際に読んだことがある生徒はそこまで多くない。無邪気な少年トムが繰り広げる冒険は中学生の好奇心をくすぐり、英語で読んでいても思わず笑っ

てしまう面白い場面も多々あり、現代であってもその魅力は色褪せない。続編『ハックルベリー・フィンの冒険』ほどの社会的な問題提起もなく、純粋に冒険文学を楽しむ上では格好の題材であると思われる。

また、Graded Readers では挿絵も豊富にあり、内容が理解しやすい。と同時に、挿絵が豊富であるために、2学期以降この題材で Story Retelling や大喜利の活動をしやすいという利点もあった。



挿絵の例 (Graded Reader, p.11 より)

生徒達には、英語で読んだ証として、各章の内容を数行で要約する宿題を出し、その宿題の提出を以て、この本を読んだことを認めた(資料1)。

#### 3.3 内容理解

2学期の授業では、全生徒に内容を細部まで理解してもらうために、また、扱われている文法項目を漏らさずカバーするために、内容理解活動と重要英文の音読を行った。授業の流れは以下の通り。

1. 重要単語の確認
2. 本文の要約穴埋め・間違い探し(本文を見ながら)
3. 穴埋めの確認(絵を見ながら)

ここまですら内容理解活動である。簡単な作業ではあるが、本文と要約を同時に読むと200-300語を読むことになり、生徒にはかなりタフな課題だった。

ここから先は、物語として retelling しやすい場合には文法解説→重要文音読→retellingへと進む。

retelling をしない場合は、文法的に重要である英文をピックアップし、解説そして音読練習をした(資料2)。

#### 3.4 Story Retelling

挿絵が豊富にあり物語として retelling しやすい箇所を選び、retelling 活動を行った。その場でキーワードを見ながら物語を再生できることが望ましいが、中学2年生の段階では、英語が苦手な生徒にとっては苦し

い活動になってしまう。暗記してしまうかもしれないが、練習する時間を多く取り、全員が自信を持って retelling に臨めるようにした。授業の流れを以下にまとめる（授業プリントは資料3）。

1. オーラル・レビュー
2. 音読
3. 穴埋め音読
4. グループで役割分担して retelling
5. ペアで役割分担して retelling
6. 1人で retelling

オーラル・レビューとはオーラル・イントロダクションのレビュー版である。オーラル・イントロダクションでやったものと同じようなものを繰り返しやる。無論、生徒が飽きないように新しい質問を試みたり、途中で話を止めて続けさせたりする。大事な点は繰り返し英語に触れさせる点である。

そこからテキストを見ながらの音読、そして穴埋め音読を行う。このまま retelling 発表に行くとき多くの生徒はできないまま終わってしまう。そこで、グループで役割分担をして、1人当たりの負荷を軽くして retelling をさせてみる。1つのグループを前に出して発表してもらうときもあれば、そのまま終わりにしてしまうときもある。1時間の中に詰め込むのではなく、時間をまたいで、繰り返し練習する機会を作る方が肝要だと思われる。

最終的には授業時間内に1人1人にパフォーマンス・テストを実施することが理想かもしれないが、時間的に難しいし、41人の retelling をひたすら聞き続けることは精神的苦痛以外の何物でもない。そこで、今回は LL 教室を使い、ヘッドセットで全員の retelling を一斉に録音した。教員はあとで音声をもとめて聞けるという利点があるし、生徒達に対して「録音される」というプレッシャーを与えることができるため、間接的に練習を要求することができる。全員の前で英語を話すという時間ももちろん必要だが、時間的な制約があるときには LL 教室のような環境で録音、提出の流れが効率的であると思われる。



Story Retelling の様子

### 3.5 新たな英文を考える

大喜利に向けて頭の体操として、各章の内容理解後に、生徒達に物語の一場面を示した絵を配布し、英語で説明を書いてもらう宿題を課した。物語通りに絵を描写しても良いが、もし面白いアイデアがある場合はそれを書くように伝えた。すると、提出した生徒のほとんどが物語とは違う独自のストーリーを書いてきた。自由英作文課題の第一歩として良かったと思う。

提出された英文は添削をして返却し、面白いアイデアをシートにまとめて後日配布した（資料4）。

## 4 英語で大喜利の実際

### 4.1 事前準備

#### 4.1.1 題材の提示

以下に大喜利当日までの準備を列記する。

11月8日（木）

授業最後に大喜利グループの発表。グループから大喜利発表者1名と放送作家3名を決める。また、お題となる5枚の絵を配布。宿題としてそれぞれの絵に関して面白い答えを考えてくるように指示した（資料5）。なお、お題となる絵は前半組と後半組で違う（4.2.2で詳述）。

11月12日（月）

授業後半20分間を取り、グループ内でお互いの考えをシェアさせる。面白いネタを選ばせる。

11月13日 TT（火）

TTの授業中に1グループずつ自分たちのネタをALTに見せ、英語をチェックしてもらう時間を取る。チェックが終わり次第、発表者はネタを頭の中に入れる。

11月15日(木)(1クラスは17日(土))

発表

#### 4.1.2 グループの作り方

41人のクラスで10グループ作るため、4人グループ×9、5人グループ×1、とした。グループ間の英語力に差ができないよう、筆者が直近の学期の成績を参考にグループを作成した。

#### 4.2 当日(授業)の流れ

##### 4.2.1 全般

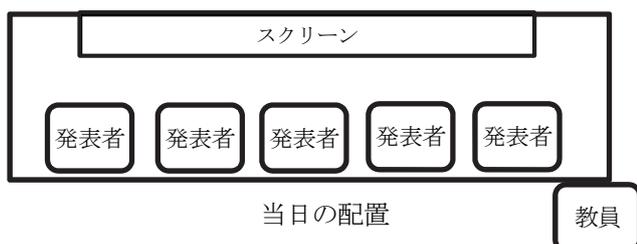
時間：20-25分

やり方：

- 10グループを事前に前半組、後半組に半分ずつに分けておく。
- 前半組の発表者5名が前に出てきてステージの上に横並びに座る。大喜利発表を始める。
- この間、後半組の生徒達は審査員となる。公平に審査してもらうため、彼らには事前に前半組のお題を示していない(前半組と後半組でお題の絵を分けたのはそのため)。
- 前半組が終わり次第、後半組を始める。審査員は前半組の生徒達。

##### 4.2.2 大喜利の進め方

- 発表者がステージ上の座布団に座る。
- 教員が絵をスクリーンに示し、“Describe the picture.”と声をかける。アイデアを発表したい人は手を上げ、指名されたら答える。
- 発表が終わったら、次に発表したい人が手を上げ、指名されてから答える。
- この作業を繰り返す。
- 1枚の絵に対して3分の時間を確保しておくところちょうど良い。1人の発表とそれに対するリアクションで30-40秒になるため、5人全員が発表すれば3分くらいになる。
- 1枚の絵に対してアイデアが出尽くしたところで2枚目に移る。これ以降は今までの手順を繰り返す。



授業当日の様子

#### 4.3 評価(資料6)

生徒達に評価シートを配布し、4つの観点(表現力、正確さ、創造性、積極性)で評価してもらった。この評価シートを集計し、個人としての得点(表現力)が最も高かった生徒に Best Performer Award, グループ点(正確さ、創造性、積極性)が最も高かった班に Best Ogiri Award を送った。

### 5 英語で大喜利を経て見えてきたこと

#### 5.1 言語が持つ創造力の再認識

フィクションを創り出すことこそが言語の本質と言えるが、今回の活動を通して、改めてその力を痛感した。

以下の絵は、物語の冒頭を示している。いつものように悪さをしたトムがポリーおばさんに捕まった。その手から逃げるためにトムは「後ろを見て!」と叫び、それを聞いたポリーおばさんは思わず後ろを見て手を放してしまう。このあとトムはすぐさま庭へ走り去ってしまった。

普通の Picture Description ならば以下のような解答が出てくるだろう。

Tom said to Aunt Polly, "Look behind you!"  
Aunt Polly let go of Tom's jacket and turned around. Tom ran away.



これに対して、生徒達から実にさまざまなアイデアが出てきた。一部をここに紹介する（詳細は資料4を参照）。

“Hey, there is a cockroach on the desk!”  
 “Oh no, where is Goki-Jet?”  
 “Wait. That is a beetle. I want to catch the beetle.”

こう解釈すると、このシーンは夏の微笑ましいワンシーンに見えてくる。(beetle だけでは本来カブトムシやクワガタムシを表せないが、ここではそこは指摘しなかった。)

A wall of glass makes Tom and Aunt Polly not able to touch each other. Polly touches the wall. Tom has found a hole of the wall and they are going there.

すごい創造力だと感心してしまう。どのような経緯が分からないが、立ちほだかるガラスの壁を前にして、懸命に出口を探そうとするトムの姿に感動すらしてしまう。

Tom: I'm not Tom. This is a shadow. The real Tom is there!  
 Aunt Polly: What!?

中学2年生の男子らしさが前面に出ている作品。この手の作品が生徒に一番ウケが良かった。この2人がこのレベルの戦いをしていたとすると、ハリー・ポッターの世界観に近く見えてくる。

Tom: Look, there is a big man. I will hit him with my right hand.  
 Aunt Polly: Wait. I must take some money.

Tom: Why?

Aunt Polly: Because you will lose, and then I have to make a friendship with him.

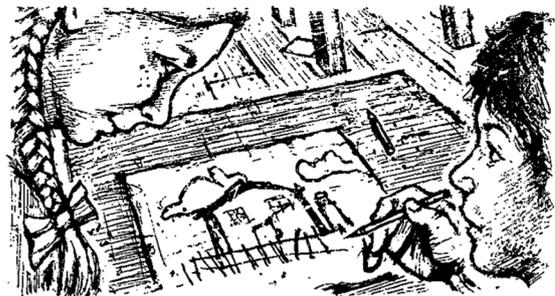
勇敢なトムを真正面から裏切るポリーお婆さんの残酷さとしたたかさが見える作品。これは bribe という単語を知らなくても bribe と同じことを簡単な英語で言っている点が評価できるし、逆に bribe という単語を使わないからこそ、全員で理解できる作品になっている。

もう一枚の例も紹介したい。

以下の絵は、物語の中盤、ベッキーに一目惚れし、何とか気に入られようと得意の絵を描いてアピールするトム。一生懸命家の絵を描いたが隣に描いた男の人の家の大きさが同じになってしまった。

普通の Picture Description であれば以下のような解答が出てくると思われる。

Tom wanted Becky to like him. He drew a picture of a house on a piece of paper. Tom drew a picture of a man in front of the house. The man was bigger than the house.



これに対しては以下のような作品が出てきた。

Becky: What a wonderful house! I like it.

Tom: Do you really think so?

Becky: Of course, I do. It's too gorgeous for my dog.

オチをつけるお手本のような作品。犬小屋と思われていたことが最後のコメントで現れるところが秀逸。

Becky: Who drew this dirty picture?

Tom: It's me.

Becky: It's beautiful. I like it.

いわゆる「手のひら返し」の例。中学2年生が好きそうな作品である。

次は少し異色な作品。

Huck is Tom's friend. He doesn't have his house, so Tom and Becky are suggesting their idea about Huck's house.

温かいストーリーでこれを読んだだけで胸を打たれてしまう。温かいだけでなく、これを書いた生徒はハックの置かれている立場もちゃんと理解できている、ということがわかる。

以上のように、ことばの力で1枚の絵にさまざまな物語が生まれる。Story Retelling で一度物語を再生したからこそ、つまり、全員が1つの解釈を学んだあとだからこそ、その絵に違う物語を与えやすくなるし、それが面白くなりやすい。このような活動を通して、生徒達にはことばが持つ力を感じ取ってほしいと思う。

また、ここに出てきている例は、事前に筆者が想像もしなかった例である。「英語で大喜利」と言う、「そんなことできるわけない」と否定的にみられることがあるが、教員の想像力には限界があっても、生徒の想像力はそれを遥かに上回っていることが考えられる。筆者自身、自分の感覚で活動を考えるてはいけない、と改めて学ぶ機会となった。

## 5.2 英語が不得意な生徒の活躍

4.1.2 で触れたように、グループ間の英語力差をなくすため、筆者が直近の成績を参考にしてグループメンバーを構成した。どのグループにも英語ができる子から、不得意な子までいる。このようなグループで発表活動をする、どのグループも英語が一番できる子が発表者になってしまうことが多いと思うが、今回は英語が不得意な生徒の頑張りが見られた。以下の表は発表者のグループ内英語力を示している。

クラス	グループ内の英語力			
	上	中上	中下	下
A	4	2	2	2
B	5	2	0	3
C	5	1	2	2
計	14	5	4	7

発表者の英語力

\*5人グループは4,5番目の生徒を「下」として計算

30グループ中、およそ半分(14)のグループは英語が最もできる人を発表者にしていった。その一方で、7つのグループで英語が一番できない生徒が大喜利発表者

になっていた。

これには放送作家の存在が大きいと思われる。英語力が高く、自分でアイデアを練って発表までやりたい、という子もいれば、アイデアを練るのはいいが発表するには抵抗がある、という子もいるだろうし、逆に、アイデアを英語で書くことはできないが、面白いネタを覚えてそれっぽく発表することは得意である、という生徒もいる。実際、英語が不得意で大喜利をやった生徒達の顔ぶれを見ると、ムードメーカー的な存在が多いように思う。英語が不得意でありながらも発表活動を楽しくやってみたい、という子が本領を発揮できる活動であると言えるかもしれない。

## 5.3 reading と writing のサイクル

今回の「英語で大喜利」では、その実施に至るまで「絵を見て面白いことを言う」という活動をしてきた(3.5参照)。この活動では既習文法を使って英文を作るような指導は特にしなかった。しなくても、生徒たちの作品からは既習文法が見られることが多い。以下の1枚の絵 (picture description の課題に使ったもの) を例にとって、その絵に対する生徒たちの作品から、習いたての文法が使われている例を確認したい。



この挿絵が登場する Chapter 9 では以下の文法項目を重点的に教えた。

日本語	英語
(俺たちは) 学校に行かなくていいんだ	We don't have to go to school.
ここはつまらない	It's boring here.

僕も飽きた。	I'm bored too.
彼らはとても嬉しかった。	They were very pleased.

ここでは don't have to と be bored / be pleased などの感情を表す表現を主に扱っている。なお、感情の表現を扱う前に受身も導入しており、その延長線で感情の表現を教えている。

では生徒の作品を見てみよう。

<b>don't have to</b>
Tom: That is my steamboat.
Huck: Really? You are very rich.
Joe: We <u>don't have to</u> work.

<b>感情を表す表現</b>
Tom: Wow! There are many real pirates on the steamboat!
Huck: What? It's so wonderful! Let's join them and be real pirates.
Tom & Jo: <u>We will never be bored.</u>

<b>受身+感情を表す表現</b>
Joe Harper found a piece of cake on the ground. It was Tom Sawyer's. Joe Harper grabbed it, and ran to Tom Sawyer and Huck Finn. Tom Sawyer kept watching the steamboat. Huck found Joe and grabbed the cake. Huck Finn hit Joe with his hand. However, <u>he was hit by Tom Sawyer.</u> Huck Finn fell down on the ground next to Joe Harper. Tom ate the cake. <u>Joe and Huck were shocked</u> and ran to Tom.

数こそは多くないが、確実に使われている。なお、2 例目の “We will never be bored.” という表現は、中 1 の 3 学期に暗唱したドナルド・トランプの就任演説の一部分 “You will never be ignored again.” の影響も出ていると思われる。

また、1 学期に指導した to 不定詞も以下のように現れている。

<b>to 不定詞</b>
Tom: What's that?
Huck: It's a steamboat.
Tom: Why did it come here?
Huck: I think it came here <u>to give</u> us something <u>to eat</u> . For example, meat, fish, and some fruit.
Joe: Oh my god! I don't want <u>to eat</u> them but more cake!

このように、少ないながらも生徒達の英作文から習いたての英文法を見ることができる。こういった既習文法を用いたアイデアを資料 4 のようにアイデア・シートにまとめて生徒達に配ることができる。生徒達は面白いアイデアを読みながら、新出文法に慣れ親しむことができる。reading → writing → reading というサイクルの中で、当該文法に繰り返し触れる機会を創り出すことができる、というのもこの活動の良さだと思う。

## 6 おわりに

これからの英語学習を考えると、インターネット上で海外の人と英語で話すことのみならず、家で気軽に AI と英語で話す時代が来るかもしれない。そうなったときに学校教育や英語教員の仕事はどうなるのか。生徒達を引き付けるだけの教材としての「面白さ」を教員が用意できるか、活動としての「面白さ」をどれだけ見せられるか、が焦点になろう。英語教員としての力量が試される時代がすぐそこまで来ていると感じる。

最後になってしまったが、「英語で大喜利」という意味不明な発想を理解してくれ、こちらの想像以上のパフォーマンスを見せてくれた生徒達に感謝したい。「学校紹介ビデオ in English」や「シェイクスピア劇のスキット」、「テレビコマーシャルの製作」などやりたいことはまだまだたくさんある。来年度も頑張りましょう。

### 【参考文献】

- 中森誉之 (2018) 『技能を統合した英語学習のすすめ』ひつじ書房  
 Mark Twain, retold by Cornish F. H. (2005). *The Adventures of Tom Sawyer*. Macmillan Readers.

中2英語

夏休みの課題

2018/07/10

The Adventures of Tom Sawyer の要約を書こう

class A no. [ ] name [ ]

1.	Tom was eleven years old. But he wasn't his parents because they were dead. He lived with his father's sister Aunt Polly. He was a bad boy, but she loved him.
2.	Tom is a smart boy. He had to paint the fence, but he didn't want to do it. So he pretended that he was enjoying it. He made his friends to paint. He finished painting. Aunt Polly was very surprising.
3.	Tom was in church, but Tom didn't enjoy the sermons. So he threw the beetle and the beetle bit the dog mouse.
4.	Only minister was serious, but everyone thought happy. Finally he met Tom's best friends was Huck. He didn't live with anybody. He was dirty and he is not good boy, so the mothers of the other boy didn't like him. Tom and Huck promised to go to grave yard each other.
5.	Tom liked Becky and she likes Tom too. Tom promised to her that he can't marry anybody else. Then he said "My hair was and it was blonde. She started to cry. Tom did not know what to do. There were three men in graveyard. Joe had been angry. Doctor Robinson, so Joe killed him. But Joe said Peter that he was killed by him. Peter didn't remember because he was drunk.
7.	Tom and Huck promised that they must not tell anybody. They were going to write their promise in blood on piece of wood. The piece of wood was grabbed by the doctor.

中2英語

2018/07/10

読書課題

8.	On Tuesday, Tom apologized to Aunt Polly. She worried about Tom. Joe said lies that Muff Potter killed the doctor. Tom and Huck worried about Muff Potter didn't tell the truth about Muff.
9.	Tom and Joe were very unhappy. They were leave home forever. Tom and Joe and Huck went to school. They were happy. The day passed, they were very sad. But they didn't go home because Tom had a wonderful idea.
10.	Tom's ideas that they had come to their own funeral. Many people were surprised and happy. On the third day, Tom talked about Muff Potter in courtroom. Joe was surprised and ran.
11.	Tom and Tom's friend went to the Hainted House, they found Juwan Joe and other men. They were talking about a lot of money. Tom was excited and worried. Because he thought Joe was going to punish him!
12.	Tom and friends went on picnic. Tom was happy because it's a birthday. They ran around in McDougals Caves. They came back but Tom and Becky were lost. They were running away from bats.
13.	Tom and Becky started to walk so that they found the way. But they didn't find and they were tired. Tom found Injun Joe. He turned and ran away. Tomorrow, Tom and Becky walked again. They would be able to go out.
14.	Everyone thought that Tom and Beck was lost. Huck too. Huck found Injun Joe and other men. they talked about Joe's revenge. Huck worried and talked to Judge teacher.
15.	Tom and Becky were not lost forever. Other people was very happy. Tom and Huck had been in the caves for two weeks. Joe was dead. Gold coins were taken back St. Petersburg. They were happy. Tom and Huck was given money. But Huck got out. They became rich.

9月4日(月)の授業で提出!

見知らぬ人	stranger	宝	treasure
掘る (過去形)	dig - dug	持ち上げる	lift
埋める	bury (発音)	埋められた宝	buried treasure
報復, 復讐	revenge	心配した	worried

**Buried Treasure**

After the trial, Tom and Huck went to an old house. All the boys in St Petersburg (1: called ) it the Haunted House. The house was empty. The windows were (2: broken ) and the fence was ( 3 ) too. The boys went into the house. They put their (4: shovels ) on the floor and went upstairs. They could look down the room through a hole. Then, two men came into the room. One was a stranger and the other was (5: Injun ) ( Joe )! They were talking about the treasure. Injun Joe moved a stone in the floor and pulled out a bag. He took some dollars from the bag and (6: gave ) them to the stranger. They dug in the floor and lifted an old box out of a hole. He took some gold coins from the box.

There was buried treasure in the Haunted House! They were very (7: excited ). Injun Joe said, "I don't want money. I want (8: revenge ). And I want your help." He also said, "I'll take the money to the other place. Those shovels are not ours. Somebody (9: has ) ( been ) here." Tom was very frightened and (10: worried ). Injun Joe was going to get ( 8 ) on him!

[Grammar]

1. call A B 「A を B と呼ぶ」

例) All the boys in St Petersburg called it the Haunted House.

問)

「僕のこととは〜と呼んで。」

[Let's practice!] 重要巻現を頭に叩き込もう。

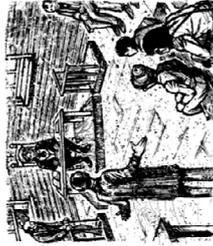
日本語	英語
少年たちは皆それをお化け屋敷と呼んだ。	All the boys called it the Haunted House.
彼らはとてもワクワクした。	They were very excited.
誰かがここに (今まで) いた。	Somebody has been here.
トムは怖くなり、心配にもなった。	Tom was frightened and worried.

The Adventures of Tom Sawyer (Ch.11)

[Dictation]

1. ....
2. ....

[Let's review]



Q. What was Tom's wonderful idea?

Q. When Tom told the story in the graveyard, what did Injun Joe do?

[原文で触れられている Huck の葛藤]

After the trial, Huck was tired and frightened. Tom told everything to the lawyer. He knew that Huck was in the graveyard and witnessed the murder with Tom. What happened if Injun Joe knew everything? Of course, the lawyer promised to keep the secret but... Why did Tom tell the story to the lawyer? **Huck's \*confidence in the \*human race was gone.**

\*confidence : (ここでは)信頼 \*the human race : 人類

Which would you choose?



or



[New Words]

日本語	英語	日本語	英語
お化け屋敷	Haunted House	空 (から) の	empty
二階へ	upstairs	〜を通して	through

The Adventures of Tom Sawyer (Ch.12, 13)

[Dictation]

1. ....
2. ....

[Let's review]

 <p style="text-align: center;">A</p>	 <p style="text-align: center;">B</p>	 <p style="text-align: center;">C</p>
--	--	--

- A) The trial started. Several witnesses started to tell their stories. But the lawyer just said, "I....." Everyone in the courtroom was angry. **Did he want Muff Potter** (2) ( ) ( )? No. He had a new witness, Tom Sawyer. He started to tell the truth to the audience. Suddenly, Injun Joe jumped up and (3. ran away / stabbed Tom ).
- B) Tom and Huck went to an old house. **All the boys** (4. ) **it Haunted House**. They went inside.
- C) Soon, Injun Joe and a stranger came to the house. They started to (5. d ) the floor. There was (6. b ) ( t ) under the floor! Tom and Huck were very excited, but Injun Joe decided to move the treasure to the other place because he noticed something. He said, "Those (7. s ) are not ours. **Somebody** (8. ) ( ) **here**." Tom didn't want to follow them because Injun Joe would get revenge on him. Tom was very (9. f ) and (10. w ).

[New Words]

日本語	英語	日本語	英語
洞窟, 洞穴	cave	ぞっとさせる	frightening
狭い (⇒ 広い)	narrow (⇒ wide)	(自然にできた道, 小道)	path
もっと速くに	further	印 (しるし)	mark
滝	waterfall	こもり	bat
入口	entrance	叫ぶ[動詞], 叫び[名詞]	shout

The Picnic at the Caves / Lost! (Chapter 12, 13)

間違い探し。右にあるPicture Descriptionsと本文をよく読み、誤っている箇所を例に挙げて訂正しよう。

	<p>All of the children in St Petersburg went to the picnic at the caves. These caves were called McDougal's Caves. It was dark and hot inside. These caves were frightening. The main path was wide and there were narrow paths to the right and to the left.</p>
	<p>Tom and Amy Lawrence left the other children and went further into the caves. They went up and up. They made a smoke mark on the wall to come back to the same place later. Then, they found a waterfall. The water fell into a small lake. The rocks under the water were black. Amy said, "What a beautiful black lake!"</p>
	<p>Tom heard a noise and looked down the lake. Thousands of small monkeys were there! They started to run away but the monkeys ran after them. They stopped to rest next to a lake. They didn't know where to go. They were lost!</p>
	<p>Tom and Becky walked and walked to find the entrance but they couldn't find it. They sat down. Becky talked a lot with Tom. They looked at the candle. It got bigger and bigger. They couldn't sleep so they sat quietly. Suddenly, Tom moved. He heard a noise!</p>



When Tom heard the noise, he thought somebody was there. He started to run along the path towards them. When he went around a corner, he saw a light. It was a candle. Somebody was holding it in his hand. He shouted loudly, "Muff Potter!" The man stood up. It was Injun Joe! Tom's shout frightened him. He turned and slowly walked away.

[Let's practice!] 重要表現を頭に叩き込もう。

日本語	英語
これらの洞窟はマクドガル洞窟と呼ばれていた。	These caves were called McDougal's Caves.
それらの洞窟は怖かった。	They were frightening.
中心にある道は細かったが、その左右にもっと細い道が続いていた。	The main path was narrow, and there were narrower paths to the right and to the left.
トム、私たちがどのくらいここにいるのかしら。	How long have we been here, Tom?

[穴埋め音読] ( )の中を埋めながら音読してみよう。

Many-of the children in St Petersburg went to the picnic at the ( 1 ). These ( 1 ) were ( 2 ) McDougal's Caves. It was ( 3 ) and ( 4 ) inside. These caves were ( 5 ). The main path was ( 6 ) and there were ( 7 ) paths to the ( 8 ) and to the ( 9 ).

[Grammar practice]

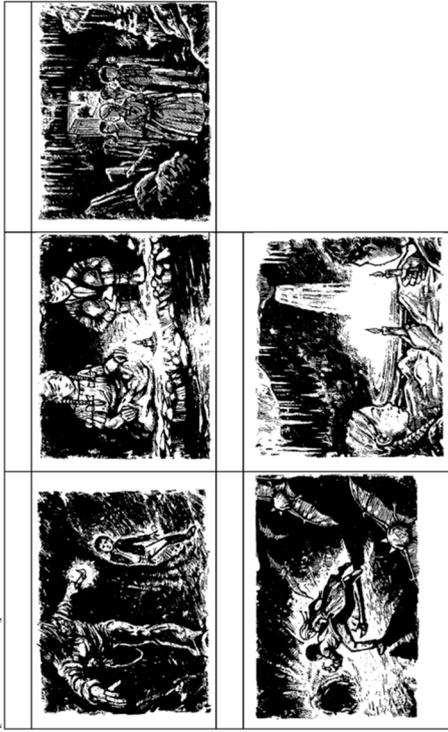
- 「大谷翔平はアメリカでオタニさん (Otani-san) と呼ばれている」  
.....Shohei Otani is called Otani-san in the U.S......
- 「私は頭が良い (smart) が、このクラスにはもっと頭が良い人がたくさんいる。」  
.....I am smart and there are smarter people in this class......
- (仲の良い2人に対して) 「知り合ってどのくらいになるの?」  
「ちょうど2年かな」  
.....How long have you known each other?  
.....For just two years......

The Adventures of Tom Sawyer (review)

[Dictation]

- .....
- .....

[Let's review!]



- Many of the children in St Petersburg went to the picnic at the caves. These caves were (1. ) McDougal's caves. It was dark and (2. c ) inside.
- Tom and Becky left the other children and they went down and down. They found a beautiful (3. w ) lake.
- They heard a noise from the roof of the cave. There were (4. thousands / hundreds ) of small, black (5. bats )! Tom and Becky started to run away and the ( 5 ) (6. f ) after them. Finally, they escaped from the ( 5 ) but they didn't know where they were. They were (7. 1 )!
- Tom and Becky walked and walked to find the (8. e ) but they couldn't. They sat down near the lake and looked at the candle. It got (9. s ) and ( 9 ). They slept or they sat quietly. Suddenly, Tom moved. He heard a (10. )! Tom walked along the path toward the ( 10 ). When he went around a corner, he saw a light. It was a candle and somebody was holding it in his hand. He shouted loudly, "(11. )" The man stood up and it was Injun Joe! Tom's shout (12. ) him and he ran away.

The Adventures of Tom Sawyer (Ch.12, 13)  
Story Retelling へ向けて

[Story Retelling へ向けて] Read the story aloud by filling in the blanks.



Many of the ( 1 ) in St.Petersburg went to the ( 2 ) at the ( 3 ).  
These ( 3 ) were ( 4 ) McDougal's ( 3 ).  
It was ( 5 ) and ( 6 ) inside.



Tom and Becky ( 7 ) the other children and they went ( 8 ) and ( 8 ).  
They found a beautiful ( 9 [2 語] ).



They ( 10 ) a noise from the roof of the cave. There were ( 11 ) of small, black ( 12 )! Tom and Becky started to ( 13 [2 語] ) and the ( 12 ) ( 14 ) after them.  
Finally, they escaped from the ( 12 ) but they didn't ( 15 ) where they were.  
They were ( 16 )!



Tom and Becky ( 17 ) and ( 17 ) to find the ( 18 ) but they couldn't find it. They ( 19 [2 語] ) near the lake and ( 20 [2 語] ) the candle.  
It got ( 21 ) and ( 21 ).  
They slept or they sat quietly.  
Suddenly, Tom ( 22 ). He heard a ( 23 )!



Tom walked along the path toward the ( 23 ).  
When he went around a ( 24 ), he saw a ( 25 ).  
It was a ( 26 ) and somebody was holding it in his hand.  
Tom shouted loudly, "( 27 )!"  
The man ( 28 [2 語] ) and it was Injun Joe!  
Tom's shout ( 29 ) him and he ( 30 [2 語] ).

家で10回音読しましょう。  
穴埋めしながらスラスラ読めるようになればキーワードをもとに物語を再生する Story Retelling もやりやすくなります。  
全文を覚える必要はありません。即興で絵を見ながら英語で説明してもらっても良いです。ただ、この英文を穴埋めしながらスラスラ読めないようでは、即興で英語で説明するのは無理です。まずは基本的な単語・表現を音読しながら頭に入れてみましょう。

Words

1. children	2. picnic	3. caves	4. called
5. dark	6. cold	7. left	8. down
9. white lake	10. heard	11. hundreds	12. bats
13. run away	14. flew (followed)	15. know	16. lost
17. walked	18. entrance	19. sat down	20. looked at
21. smaller	22. moved	23. noise	24. corner
25. light	26. candle	27. HELP	28. stood up
29. frightened	30. ran away		

Picture Description #1

class no. \_\_\_\_\_ name \_\_\_\_\_

Describe the pictures based on the story. Witty answers are also welcome.



[Model Answer]

Tom said to Aunt Polly, "Look behind you!"

Aunt Polly let go of Tom's jacket and turned around. Tom ran away.

[Funny Ideas]

- Tom and Aunt Polly did janken. Tom showed rock. Aunt Polly showed paper. Aunt Polly won at the janken but Tom won "Acchimuite hoi."
- "Hey, there is a \*cockroach on the desk!"  
"Oh no, where is Goki-Jet?"  
"Wait. That is a beetle." I want to catch the beetle."  
\*cockroach : コキアリ
- A wall of glass makes Tom and Aunt Polly not able to touch each other. Polly touches the wall. Tom has found a hole of the wall and they are going there.
- Tom: Look behind you, Aunt Polly!  
Aunt Polly: What?  
Tom: Hey! I'm here!  
Tom: I want to buy that game in January!  
Aunt Polly: No! In May!
- Tom: I'm not Tom. This is a shadow. The real Tom is there!  
Aunt Polly: What?  
Tom: Look, there is a big man. I will hit him with my right hand.  
Aunt Polly: Wait. I must take some money.  
Tom: Why?  
Aunt Polly: Because you will lose, and then I have to make a friendship with him.



[Model Answer]

While Ben was enjoying painting the fence, Tom sat down on the ground and was eating Ben's apple.

[Funny Ideas]

- Ben hated Tom because Tom \*forced Ben to paint the fence. Ben got very angry. Ben painted the wall with \*poison and Ben gave Tom a poison apple. Finally, the wall of Tom's house was full of poison. He was getting very sick.  
\*force : 強制する \*poison : 毒
- This scene is very funny. Tom put \*glue for wood into the bucket, and he made Ben paint the fence. The paintbrush was stuck to the fence and he \*realized it. But it was too late!  
glue : 糊 (のり) \*paintbrush : ブラシ, 刷毛 realize : 実感する
- Tom: Why are you painting the fence? I like painting. I will paint your apple!
- Tom: Oh! There is a bug in this apple!  
Ben: Hahahaha!
- Tom thought to himself, "I'm clever!"  
Ben thought to himself, "I'm tired! I don't want to paint it. I just want to appear in this story. I want to be famous!"

中2英語 グループ6-10

2018/11/08

Picture Description  
『英語で大喜利』のお題

放送作家は以下のお題に合わせて、オリジナルストーリーを考えてみてください。  
11月12日(月)の授業でネタを班内でシェアします。

第二部



Tom has trapped Amy Louvere  
in side the fence.  
Ben is painting the fence with  
poison to make sure Amy Louvere  
doesn't come out.



Tom put his eye drops in her belly's eyes.  
Tom put his eye drops in her belly's eyes.  
It burned her eyes, so  
Becky started to cry.

Tom got annoyed to a metal door handle.  
Becky is sad because she wanted to  
marry the metal door handle.

中2英語 グループ6-10

2018/11/08



The doctor is doing ウジ退治  
He checked by using his hands  
so Teacher Joe got angry at him.  
Indian Joe and Muff Potter and The doctor  
are fighting for the piece of wood.  
They want to get engaged to it.



Indian Joe is selling his expensive  
shovel to a man.

A man is buying an expensive  
shovel from Indian Joe with  
gold coins.



Tom and Becky went  
camping.  
They are sad, because  
there was no WiFi at  
the camp site.

